

2019年2月吉日

クリスマスカードキャンペーンに参加いただきました皆様へ

特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部
クリスマスカードキャンペーン担当 インターン生 高田浩気

お礼状

拝啓

寒い中にも春の足音が聞こえてくるような今日この頃、皆様はいかがお過ごしでしょうか。
昨年はクリスマスカードキャンペーンにご協力いただき、誠にありがとうございました。

ご報告が遅くなりましたが、皆様からお預かりしたカードは、

ウクライナへ **1832** 通、福島へ **1125** 通、東海圏内の避難者の方々へ **208** 通

を無事贈ることができました。

届けた時の写真を数枚、ウクライナのカウンターパート・ホステージ基金の代表ドンチェヴァさんからのメッセージをご報告として添付いたします。

クリスマスカードキャンペーンは、当団体の設立当初から続く活動の1つで、早28年が経過しました。クリスマスという1年に1度のとても大切な日に、ウクライナと日本を繋ぐと同時に、被災者の方々の心の支援を行う大切な活動です。皆様のご支援があったからこそ、ここまで活動を続けることができました。当団体一同、心より感謝申し上げます。

クリスマスカードキャンペーンは来年度も行う予定です。今秋頃にキャンペーンのご案内をしたいと思っております。ぜひ、ご友人やご家族、職場の皆様等にお声掛けいただき、ご参加していただけることを願っております。

もうまもなく春の訪れ。平成も終わり、新たな時代でのご活躍とご健康を心よりお祈りいたします。

敬具



《小高幼稚園》



《みなみ保育園》



～各地からクリスマスカードが集結～

今年度は11月19日にウクライナ便のカードを11月30日に福島用のカードを締め切り、合計で3000通を超えるカードが集まりました。締め切り後、事務所では梱包・発送準備を行いました。皆様が作ってくださったカードとサンタ、折り鶴などを封筒に入れる作業をしていたのですが、このカードが実際に子ども達の手に渡り、子ども達が喜ぶ姿を想像するだけで、とても心躍る嬉しい気持ちになりました。

～とどけ！クリスマスカードとその思い～

12月11日から14日の4日間、福島県南相馬市内の8つの保育園・幼稚園と小中学校を1校ずつ訪問し、子ども達にクリスマスカードを贈り届けることができました。

子ども達の中には、サンタに驚いて泣いてしまう小さい子もいましたが、多くの子ども達が笑顔でクリスマスカードを受け取り、嬉しそうな表情を浮かべていました。また、福島へ届けたクリスマスカードのほとんどが遠く離れたウクライナから届いたもので、そのことを子ども達に伝えると驚いた表情をしていました。

「本当に心がこもった贈り物は、世代や文化・言葉の壁を超えて、伝わるものなのだ」と改めて感じました。また、このクリスマスカードキャンペーンは、原発事故が起きた被災地に住む方々の心の支援を目的とした活動であると同時に、日本とウクライナの懸け橋にもなることができる活動なのだと感じました。



《青葉幼稚園》



《北町保育園》



～世界の子供たちへの新年のご挨拶～

ジトーミル州では、「クリスマス・カード・キャンペーン」がもう例年の行事になっています。参加者の数は毎年増え続け、多くの人は毎回参加していますが、遠い東の国からのカードを受け取りたいという新しい希望者もあります。2018年には、67の施設が参加しました。学校、幼稚園、子供たちが治療を受けている病院のセクション、孤児院、青少年芸術センターなど。ジトーミル市、コロステン市、ベルドゥイチウ市、オヴルチ市、ナロジチ町からの参加がありましたが、地方の学校の先生方も大変熱心でした。ジトーミル地区、アンドルシウ地区、バラニウカ地区、ベルドゥイチウ地区、ブルスイリウ地区、コロステン地区、ルヒヌイ地区、ナロジチ地区、オヴルチ地区、オレウシク地区、ポピリニャ地区の学校です。今年は1372通のクリスマス・カードを受け取り、24kgの小包を日本に送りました。

日本でもこの共同のキャンペーンの参加者が増えていることをお知らせしたいと思います。主には名古屋の「チェルノブイリ救援・中部」でしたが、その後東京、新潟、静岡、日進町、また福島県にもお友だちができました。

ウクライナの参加者たちの声をいくつかご紹介します。

遠い日本からクリスマス・カードをお送りいただき、どうもありがとうございます。園児たちはカードを大事に家に持ち帰り、両親に見せています。

どうぞ楽しい新年をお迎え下さいますよう。

(ジトーミル市、第25番幼稚園)

私たちはあなた方のカードを受け取った子供たちの笑顔を見、それはとてもうれしいことでした。ご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

(ポピルニャ地区コルヌイン町、児童創造センター「創造の宝箱」)

私たちの小さな患者たちも、例年のように「クリスマス・カード・キャンペーン」に参加しました。ひと月の間、子供たちは日本の子供たちのためにお祝いのカードを準備しました。その間当セクションで治療を受けた、百人近くの子供たちが参加したプロジェクトでした。心理面での発達の問題を抱え、特別な配慮を必要とする子供たちです。彼らにとって前向きな気持ちにさせる刺激はとても重要です。自分の手を使ってよいことをし、他の人たちに喜ばれ、必要とされるのですから。

(州立精神病院小児セクション)



《バラノカ地区の消防士の子供達》



《グラトコウイ村幼稚園》

親愛なる日本の友人の皆さん！

今年もクリスマス・カードと、こちらの伝統的な手作りの人形を思わせる、興味深い紙の作品をお送りいただき、本当にありがとうございます！ とてもうれしかったです。皆さんの善良なお気持ちに、とても感謝しています。

(ジトームル市、第3番幼稚園)

[訳注：文中の「伝統的な手作りの人形」(モタンカ)の写眞は、ウィキペディアの記事(ウクライナ語)

<https://uk.wikipedia.org/wiki/Мотанка>

にあります (ただし最初の写眞は、紀元前4~3世紀の古代ローマのものです)。]

少し前、私たちは新年の楽しい祝日を園で祝い、大勢の昔話の主人公たちがやってきました。モローズ爺さんと雪姫も一緒にした[訳注：モローズ(厳寒)爺さんと雪姫は、正月とクリスマスの主要なキャラクター]。すばらしいクリスマス・カードや、その他の手芸品をどうもありがとうございます。子供たちは喜びました。ウクライナからこんなに離れている国のカードをいただくのは、本当にうれしいことでした。

(ジトームル地区フルィボーチツァ村、未就学児童教育施設「虹」)

「お陽さま」幼稚園の子供たちも、ママと一緒に、クリスマスと新年のお祝いのカードを皆さんのために頑張って作りました。子供たちはカードに自分の思いと、心の温もり、希望と夢を託しました。楽しい新年とクリスマスをお迎えになりますよう！

(ナロジチ町、「お陽さま」幼稚園)



《ナロジチ町「おひさま」幼稚園》

ナロジチ町ギムナジウムは、皆様のカードに心より感謝を申し上げます。子供が喜びに目を輝かせ、幸せな笑顔を浮かべるには、本当に少しのもので充分なのです。皆様が喜びとご多幸に恵まれますよう。

(ナロジチ町ギムナジウム)

古い歴史のあるポーシェ地方のオヴルチ市にある私たちの学校は、皆さんのクリスマス・カードを受け取り、それを各学年の子供たちで分け合いました。これは私たちの友情と、原子力の惨事で被災した両国民の支え合いの、もう一つの証です。

(オヴルチ市第3番学校)



《オヴルチ市第3番学校》

慈善活動は、それに携わる人たちの努力と責任感に基づくよい行いです。私たちの学校はこの活動に多くの配慮をし、善良で思いやりのある子供たちを育てようとしています。「クリスマス・カード・キャンペーン」への参加は、世界をよりよくしようという意図と行いの調和の一例です。すべての国民が幸せで、今後も発展していけますように。

(ジトームル市、第25番学校)

以上 [原文はウクライナ語及びロシア語]